

性的少数者(LGBT)や性の多様性への理解を広げてもらおうと、倉敷市教委は保護者向けの冊子を作った。自分の性別に違和感を持ったり悩んだりする子どもを受け止

める上で必要な知識やアドバイス、相談機関を掲載している。計5万部を作成し、市立の全幼稚園と小中高校、特別支援学校を通じて配っている。(山内悠記子)

倉敷市教委が保護者向け冊子

冊子(A4判、4ページ)のタイトルは「保護者に知ってほしい多様な性」。市教委によると、性別への違和感を抱える児童生徒に関する保護者や教員からの相談は年々増えている。保護者の否定的な対応が原因で子どもが追い詰められるケースもあり、親世代の理解を進めるため作成した。

性別悩む子どもも理解を



LGBTや性の多様性への理解を広げてもらおうと倉敷市教委が作成した保護者向け冊子

受け止め方、相談先掲載

中塚幹也教授の調査結果を掲載。「同性愛の人をからかう話題になった時、心で泣いた」市ヤングテレフォンな「先生が同性を好きになる人もいると話してくれてほっとした」など、就学前から小中高校でみられる代表的な悩みや周囲の適切な対応をイラスト入りで紹介した。

国民の11人に1人がLGBT層に該当するといわれる民間調査も踏まえ、性自認(自認する性別)や性的指向(好きになる性別)の意味などを解説。子どもの気持ちを大切に自分らしさを伸ばす▽多様な性を理解し肯定的受け止め、一緒に考えながら成長を支える一助になれば」としている。

市教委人権教育推進室は「性別や女・男らしさという固定観念に不安を抱える子どもを受け止め、一緒に考えながら成長を支える一助になれば」としている。